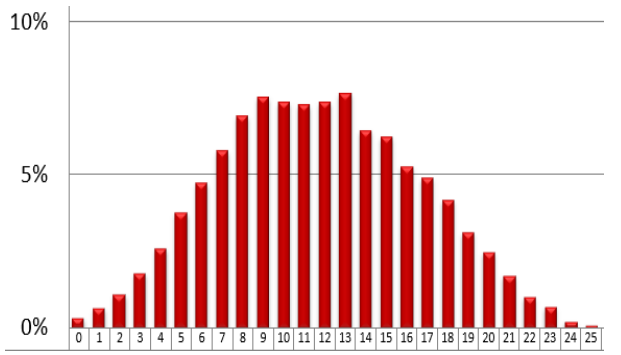
令和３年度岩手県中学校新入生学習状況調査　指導資料　　令和３年８月　発行　岩手県教育委員会

授業改善の手引　中学校第１学年国語

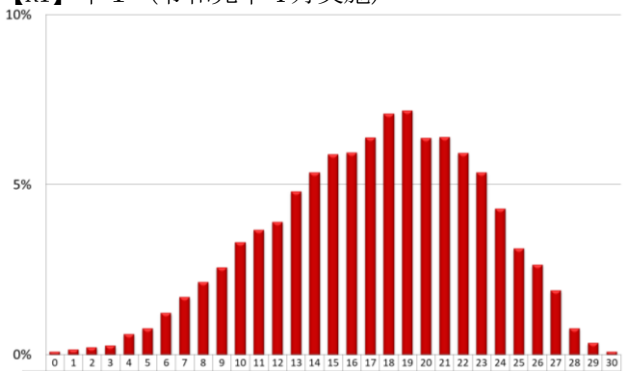
１　調査結果

(1)　分布状況

【R3】中１（令和３年４月実施）



【R1】中１（令和元年４月実施）



○　問題数は昨年度から問題数を減らし 25 問、正答数の最頻値は 13 問、平均正答数は 13 問です。平成 31 年度と比較すると、分布の山が大きく左に移動しました。正答数の最頻値より高い正答の割合は 35%、低い正答の割合は 57%で、分布の山が左に移動しています。

（正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数）

(2)　領域等の正答率

領　域　等		正答率 （　）は H31 新入生学調、〈　〉は H30 県学調（小 5）		
〔知識及び技能〕	（6 問）	59%	(72%)	〈73%〉
〔思考力，判断力，表現力等〕「A話すこと・聞くこと」	（6 問）	63%	(65%)	〈61%〉
〔思考力，判断力，表現力等〕「B書くこと」	（3 問）	25%	(37%)	〈53%〉
〔思考力，判断力，表現力等〕「C読むこと」	(10 問)	37%	(43%)	〈48%〉

(3)　結果概要

○　小問ごとの正答率において、「１(2)　話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く」問題が 79%、「２(1)　話の内容についてのメモの取り方の工夫を理解する」問題が 83%、「３(2)　日常使われる敬語をただしく使う」問題が 83%で、正答率の高さが目立ちました。

○　経年比較の活用問題となっている「４(3)①　登場人物の心情を読む」においては、55%（＋17 ポイント）と一昨年度を上回ったことから、登場人物の相互関係や心情の変化などについて、引き続き指導の工夫が必要な状況にあります。

●　領域等においては、〔知識及び技能〕が 59%と一昨年度を 13 ポイント下回りました。これは、日常の言語活動の中でどれだけ活用できるかをみる問題（令和３年度から）に対応できなかったことが要因として考えられます。〔思考力，判断力，表現力等〕においては、「A話すこと・聞くこと」が 63%（－２ポイント）「B書くこと」が 25%（－12 ポイント）「C読むこと」が 37%（－６ポイント）と、こちらも一昨年度を下回る結果となりました。

●　経年比較問題になっている小問ごとの正答率においては、「１(4)　話合いにおける司会の役割がわかる」問題が 42%（-28 ポイント）、「４(3)②　登場人物の心情を読む」問題が 44%（－15 ポイント）、「５(5)　文章の構成をとらえて読む」問題が 37%（－10 ポイント）でそれぞれ下回り、指導の工夫が必要な状況にあります。

問題番号 大問	中問	小問	通番号	調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択No. 1 選択	2 選択	3 選択	4 選択	5 誤答	6 正答	9	0 無解答
								(%)								
1	(1)		1	話し手の意図を考えながら，話の内容を聞く。	第5・6学年思判表A(1)エ	話・聞		54					39	54		7
	(2)		2	話し手の意図を考えながら，話の内容を聞く。	第5・6学年思判表A(1)イ	話・聞		78	2	9	11	78				
	(3)		3	話し手の意図を考えながら，話の内容を聞く。	第5・6学年思判表A(1)エ	話・聞		55	23	55	17	5				
	(4)		4	話合いにおける司会の役割がわかる。	第5・6学年思判表A(1)オ	話・聞	経年	42	50	5	42	2				
2	(1)		5	話をわかりやすくするための資料の使い方を理解する。	第5・6学年思判表A(1)ウ	話・聞		83	83	4	4	8				1
	(2)		6	疑問に思ったことを適切な言葉遣いでたずねる。	第5・6学年思判表A(1)エ	話・聞		65					27	65		8
3	(1)		7	文脈に沿って，漢字を適切に使う。	第5・6学年知技(1)エ	言葉		26					59	26		15
	(2)		8	日常使われる敬語を正しく使う。	第5・6学年知技(1)キ	言葉		83					13	83		4
	(3)		9	熟語の構成を意味との関わりから理解する。	第5・6学年知技(1)オ	言葉		74	74	11	8	5	1			1
	(4)		10	文の構成について理解する。(修飾語)	第5・6学年知技(1)カ	言葉	経年	59	17	7	15	58	1			1
	(5)		11	和語・漢語・外来語の区別について理解する。	第5・6学年知技(1)ウ	言葉		65					18	65		17
	(6)		12	主語と述語の関係について理解する。	第5・6学年知技(1)カ	言葉		45					43	45		13
4	(1)		13	場面の描写と登場人物の様子を読む。	第5・6学年思判表C(1)エ	読		26					57	26		17
	(2)		14	場面の描写と登場人物の様子を読む。	第5・6学年思判表C(1)イ	読		30					38	30		31
	(3)	①	15	登場人物の心情を読む。	第5・6学年思判表C(1)イ	読	経年・活用	55	14	6	21	55	1			3
		②	16	登場人物の心情を読む。	第5・6学年思判表C(1)イ	読	経年	44					43	44		13
	(4)		17	表現の仕方をとらえて読む。	第5・6学年思判表C(1)イ	読		29	8	29	22	36				5
5	(1)		18	文章の内容を的確に押さえて読む。	第3・4学年「読」(1)ア	読		38					43	38		20
	(2)		19	目的に応じて，必要な情報をとらえて読む	第5・6学年「読」(1)ウ	読		32					43	32		24
	(3)		20	目的に応じて，必要な情報をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読		46	46	18	9	13				14
	(4)		21	文章の要旨をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)ア	読	経年・活用	31					41	31		28
	(5)		22	文章の構成をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)ア	読	経年	37	17	14	37	7				25
6			23	資料を基に，自分の考えを書く。	第5・6学年「読」(1)ウ	書	経年	39					15	39		47
			24	資料から読み取ったことを根拠にして書く。	第5・6学年「読」(1)ウ	書	経年・活用	13					33	13		54
			25	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	第3・4学年「読」(1)イ	書		24					23	24		53
					全体正答率			47								

※整数値で表示のため、合計が100にならない場合があります。

２　指導のポイント

⑴　目的や進め方を意識して、司会、参加者などの役割を果たしながら話し合う学習を大切にしましょう。

ア　問題の概要

1 （４）話合いにおける司会の役割がわかる。 第３・４学年〔思考力，判断力，表現力等〕Ａ「話すこと・聞くこと」（１）オ　正答率　41.9％

イ　誤答分析

提案に対する司会の、「～という案ですね。」という発言を受けて、選択肢１「司会者は、案が出るたびに発言の意図を確認して、常に相手の意見を要約していた。」を選んだ生徒が最も多く見られました。これは、話合いの目的や進め方における司会の役割に目が向かなかったことが原因と考えられます。

この問題では、司会、参加者などが、話合いの流れを踏まえて発言しているかという観点で聞き取る力が求められます。そのため、話合いの目的や目指す到達点、進め方を理解した上で話題に沿って発言しているか、その発言は話合いの流れを踏まえているかなど、適時判断することに課題があると考えられます。

ウ　指導上の留意点

（ア）　話合いにおける司会の役割を果たしながら話し合うことについては、既に小学校第３学年及び第４学年（「Ａ　話すこと・聞くこと」の指導事項オ）で学習しています。このことは、中学校第１学年（「Ａ　話すこと・聞くこと」の指導事項オ）の、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめるという学習につながります。

（イ）　指導に当たっては、役割を意識しながら、話合いの到達点に向けて、考えを広げる段階や、出された考えを整理しつつまとめる段階などの流れに沿って客観的に自分たちの話合い活動を振り返ることが大切です。例えば、ICT 機器等を活用して話合いの様子を録画または録音し、生徒相互に分析し合ったり助言し合ったりするなど、自分たちの話合いの仕方を客観的に振り返り、改善点を見出すような展開の工夫が考えられます。

⑵　登場人物の心情について、登場人物相互の関係に基づいた表現の仕方に着目して読むことができる学習過程を工夫しましょう。

ア　問題の概要

4 （４）表現の仕方をとらえて読む。 第５・６学年〔思考力，判断力，表現力等〕「Ｃ読むこと」（１）イ　正答率　28.5％

イ　誤答分析

「陽菜」の気持ちが変化した要因を、「黒田くん」との関係に基づいた行動や会話、情景などから想像することが正答を選ぶための要件でした。「陽菜」が気持ちの浮き沈みを繰り返していると捉えてしまった誤答が最も多く見られました。

この問題では、登場人物の相互関係や心情の変化などを、描写を基に捉える力が求められます。そのため、登場人物の相互関係に基づいて、直接的あるいは、間接的に表現された心情や場面の描写を複数の叙述を基に捉えることに課題があると考えます。

ウ　指導上の留意点

（ア）　登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることについては、既に小学校第５学年及び第６学年（「Ｃ　読むこと」の指導事項イ）で学習しています。このことは、中学校第１学年（「Ｃ　読むこと」の指導事項イ）の、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えるという学習につながります。

（イ）　指導に当たっては、登場人物の相互関係を捉えた上で、行動や会話、情景などに注意して読み進めることが大切です。例えば、人物相互の関係を相関図にまとめて説明する活動を通して、生徒が、物事の様子や場面、情景、行動や心情など細部の描写に着目しながら、場面の展開とともに変化していく人物相互の関係を捉えていく学習過程にするなどの工夫が考えられます。

⑶　目的に応じて要旨をとらえ、分量や表現の仕方などに合わせてまとめる言語活動を位置付けましょう。

ア　問題の概要

5 （４）文章の要旨をとらえて読む。 第５・６学年〔思考力，判断力，表現力等〕「Ｃ読むこと」（１）ア　正答率 31％

イ　誤答分析

無解答率は 39％でした。誤答を分析すると、「海には天敵が多い」、「卵の生存率を高めるため」という２点に触れられていないもの、「サケがどうして川で出産するのか」という問いに対応していないものが多く見られました。これは、捕食者から逃れるために川や池に住む淡水魚だけに着目してしまい、再び海に向かい体を大きくしたサケ科の魚たちが、卵の生存率を高めるために川に卵をたくさん出産することを解説している第十段落に目が向かなかったことが原因であると考えられます。

この問題では、サケ科の魚が再び海に向かい川に戻る理由を捉えるために必要な情報を的確に探し出す力が求められます。そのため、目的に応じて書き手の伝えたい内容を的確に押さえて要旨を捉える力に課題があると考えられます。

ウ　指導上の留意点

（ア）　事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することについては、小学校第５学年及び第６学年（「Ｃ　読むこと」の指導事項ア）で学習しています。このことは、中学校第１学年（「Ｃ　読むこと」の指導事項ア）の、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などの関係を叙述を基に捉え、要旨を把握する学習につながります。

（イ）　指導に当たっては、文章の構造を踏まえて、キーワードやキーセンテンスなどに留意して情報を整理し、正確に要旨を捉えられるようにすることが大切です。例えば、文章から必要な情報を取り出して解説する言語活動などを通して、何のために、どのような情報が必要かを明確にし、生徒自身が主体的に要旨をとらえ、分量や表現の仕方に合わせてまとめていく学習過程にするなどの工夫が考えられます。

⑷　複数の情報を比較したり関連付けたりしながら、自分の考えを明確にして書く学習を大切にしましょう。

ア　問題の概要

6　条件②　資料から読み取ったことを根拠にして書く。 第５・６学年〔思考力，判断力，表現力等〕「Ｂ書くこと」（１）ウ　正答率 13％

イ　誤答分析

誤答の多くは、条件②「自分の考えの理由や根拠となる内容をとして資料Ａ・Ｂの両方から読み取ったことを『割合』という言葉を使って書くこと」に反して、どちらかの資料のみに着目し２つの資料を関連させていないものや「割合」という言葉を使っていないもの、資料Ｂの「割合」を正確に読み取れていないものでした。

この問題では、複数の資料から適切な言葉や数値を用いて記述する力や、それらを関連付けて自分の考えを明確にする力が求められます。文章と図表という種類の異なる資料から読み取った情報を基に、それらの情報を比較し関連付けながら根拠を明確にして考えを形成することに課題があると考えられます。

ウ　指導上の留意点

（ア）　目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見などとを区別して書いたりなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、小学校第５学年及び第６学年（「Ｂ　書くこと」の指導事項ウ）で学習しています。このことは、中学校第１学年（「Ｂ　書くこと」の指導事項ウ）の、根拠を明確にしながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫することの学習につながります。

（イ）　指導に当たっては、例えば、複数の資料を関連付けながら読み取れる情報を正確に捉え、その情報に対する自分の考えを書く言語活動を位置付けると効果的です。その際、複数の資料を一度に読み取らず、一つずつ資料から分かる事柄を読み取る段階、複数の資料を関連させる段階、複数の資料を根拠に自分の考えをまとめる段階というように、生徒の思考段階に合わせた学習を展開するなどの工夫が考えられます。

【複数の表やグラフを関連付けて読み、自分の考えを明確にして書く段階的な指導の例】

（教材：Ｒ３新入生学調問題文）

【資料Ａ】　新聞に投稿された中学生の意見文

私たちのくらしの中で出るプラスチックなどのさまざまごみが、近年、日本だけの問題ではなく、深刻な地球規模の問題となっている。

例えば、毎日大量に消費されるプラスチック製品は、自然の中で分解されることはないため、そのまま海を漂い続ける。それが大量の「プラスチックごみ」となり、海洋汚染を引き起こす原因となっている。その量は、いずれ魚の量を超えると予想されるほどである。

自然環境を守り、限られた資源を未来につなぐためには、社会全体でごみ問題を考えていく必要があるのではないだろうか。ごみ問題の解決に向けての取り組めることはまだまだありそうだ。これからは、まだ十分行われていない取り組みにも目を向けて、私たち中学生も、社会の一員としてごみ問題に真剣に向き合う必要があるのではないか。

【資料Ｂ】　消費者の「３Ｒ」における取り組み

3Rの分類	具体的な行動	取り組まれている割合
リデュース（ごみの減量）	詰め替え製品を積極的に使用する	74.7%
	レジ袋を使用しない	72.7%
	ペットボトルなど使い捨て容器を使用しない	23.0%
リユース（繰り返し使用）	インターネットオークションで売買する	28.3%
	バザーやフリーマーケットで売買する	23.4%
	再使用可能な容器を使った製品を買う	10.1%
リサイクル（資源として再利用）	家庭で出たごみを分別する	90.6%
	トレイや牛乳パックなどの店頭回収に協力する	47.5%
	リサイクル製品を積極的に購入する	12.9%

（環境省資料をもとに作成）

〈授業の展開例〉

1　【資料Ａ】からごみ問題の一例になっているプラスチックごみの現状と【資料Ｂ】から消費者の「３Ｒ」における取り組みの現状を読み取る。**【情報の読み取り】**

2　【資料Ａ】と【資料Ｂ】から読み取った事実や意見を関連付け、その背景や解決策を探る。**【情報の関連付け】**

3　中学生としてごみ問題を解決するためにどのように取り組んでいきたいか、自分の考えを書く。

【条件に応じた記述】

条件①　２つの資料をもとに自分の考えを書く。

条件②　２つの資料の両方から読み取ったことを「割合」という言葉を使って書く。

4　それぞれの考えを交流する。　**【考えの共有】**

複数の情報を関連付けて考えさせましょう！

＜ごみの問題はどうして起きる？＞

- 詰め替え製品の積極的な使用やレジ袋を使用しない取り組みの割合は高いよ。
- ペットボトルなどの使い捨て容器を使用しない取り組みが低いことがプラスチックごみを生み出しているのかな。
- リサイクル品を積極的に購入する割合も低いね。

＜ごみ問題を解決する方法は？＞

- 3R に関わる具体的行動は取り組まれている割合に差がある。
- 3R に関わる具体的な行動には簡単にできそうなものとそうではないものがありそうだね。

条件を設定して考えを書かせましょう！

＜中学生の自分にできることは？＞

- レジ袋を使用しないところから取り組もう。取り組みやすいし、他の生き物への影響も防げると思う。
- リサイクルショップを積極的に活用したい。取り組まれている割が低いものに目を向けないと、地球規模になっているごみ問題を解決できないと思う。

多様な考えを交流で引き出しましょう！

〈読み取った事実を根拠にした自分の考え方は？＞

- 取り組まれている割合が高いものに取り組もうとしたり、逆に割合が低いものに挑戦しようとしたり人それぞれだけど、問題に目を向け実践することが大切だ。